

# 区議会での主な質疑内容 ～令和6年～



## 子どもの居場所について

**おおにし:**  
学童保育クラブ増設や民間による子ども食堂などの設立支援など区は今後の子どもの居場所づくりについてどのような方針をもっているのか。

**子育て支援部:**  
各地域では支援が必要な子ども・若者を支援するために子ども食堂や学習支援等を運営する子育て支援団体が居場所づくりに取り組んでいる状況である。これまで区が進めてきた居場所の整備や子育て支援団体の支援を着実に進めるとともに「葛飾区子ども・若者総合計画」に子ども若者の居場所づくりの取り組みを位置づけ、ニーズや現

状の地域資源等の実態を把握した上で、居場所の充実について具体的な内容を検討する予定である。

**おおにし:**  
子どもが多様な居場所を選択できるようにするため、居場所づくりとあわせて区が積極的に周知などの広報や利用者への啓発を進めていくべきと考えるが区の考えを伺う。

**子育て支援部:**  
区では今後も多様なニーズに応えられるように子ども・若者の声を聴きながら居場所づくりを推進するとともに、居場所となり得る公共施設や子育て支援団体の活動に加え、今後実施を考えているニーズ調査等で得られた情報について様々な媒体を用いて発信するなど周知・啓発についても進めていく。



状の地域資源等の実態を把握した上で、居場所の充実について具体的な内容を検討する予定である。

## 教育について

**おおにし:**  
中央区では卒業や成長に伴って着られなくなった区立学校・幼稚園の標準服・園服を回収し、クリーニングや補修を行ったうえで必要とする子どもの保護者にクリーニング等の実費負担額で譲渡する「中央区標準服リユース事業」を実施している。本区でも同様の制度の導入を検討すべきと考えるが見解を伺う。

**教育委員会:**  
中央区の「標準服等リユース事業」はリユース実績のあるNPO法人に委託して実施しているものと聞き及んでいる。本区での実施につきましても今後研究していきたいと考えている。



**おおにし:**  
文部科学省の「初等中等教育段階における生成AIの利用に関する暫定的なガイドライン」では学校における生成AIの活用について「パイロット的に取り組むことが適当」であることが示されている。岐阜市では、中学生300名を対象とし、AIによる対話型の学習を行っている。生徒一人ひとりに応じた指導が可能となり、成績の向上が期待されている本区でも導入すべきと考えるが見解を伺う。

**教育委員会:**  
暫定的なガイドラインでは生成AIがどのような仕組みで動いているかという理解やどのように学びに生かしていくかという視点近い将来使いこなすための力を意識的に育てていく姿勢は重要であるとされている。

## 防災について

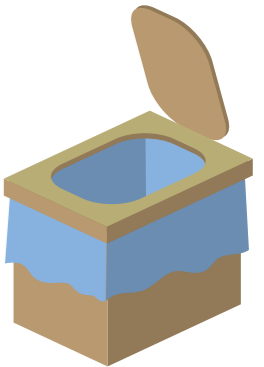
**おおにし:**  
能登半島地震でも避難所のトイレが断水で使用できない、携帯トイレの不足、仮設トイレがなかなか設置できないなど多くの問題が発生した。トイレは切実な問題であると考えが区の認識はいかがか。また、現在の区のトイレ対策はどのようになっているのかについても併せて伺う。

**危機管理課:**  
トイレの問題は感染症や排せつの我慢を招き、災害関連死の原因にもなるため、区としてもトイレに関する課題解決に向けてできる限り早く取り組んでいくことが重要であると考えている。第一順位の学校避難所にマンホールトイレの整備を進め、建て替え計画中の箇所などを除きほぼ全ての学校避難所で整備が完了している。また、組み立て式の六角トイレや簡易トイレの備蓄なども進めている。さらに区内37か所の防災活動拠点やにいじゅくみらい公園等においてもマンホールトイレ整備を進めており、下水道局整備分を含めると約1,300基のマンホールトイレが区内に配置されている。自助による簡易トイレの備蓄の推進、公助によるマンホールトイレの整備などにより、災害時におけるト

イレ環境の改善に向け、取り組みを推進していく。

**おおにし:**  
今後の災害時の広報の充実策についての考えを伺う。

**危機管理課:**  
広報の充実策としては令和8年度運用開始予定の総合防災情報システムの検討を進めていく中で、情報分野についてはAI分析による大量に出回るデマ情報を排除した情報収集やシステム内で区民向けのポータルサイトを構築し、区民の皆さんに適宜避難情報や避難所情報、ライフラインの情報などの閲覧可能な環境の構築に向け、取り組みを進めているところ。



下記についてご意見がございましたらご記入ください。

・子どもの居場所について

・教育について

・防災について

お困りごとがございましたらお書きください。

